

定価 一月五錢 三月十五錢 半年三十錢 一年六十錢
発行所 常報日新新聞社
印刷所 常報日新新聞社

創作 死を撰ぶ人々

長瀬 忠夫

(三)

静江の室に入ると、彼はもの珍しさうに部屋の中をあちこち見廻した。
『さみひとり居るのかい』
『い、ひとりよ、どうして』
『さみの様な女をひとりで置くのはもつたないね』
『まあ、あんな事言つて敏夫さん、貴方随分變つたわね』
『どつちの言ふ事か』
『かふものぢやないわと言ふ様に眼をくる／＼した。』
『あたしの様な女、誰方も相手になんかしてくれないわ』
『さう言ひながら踵の高い靴を脱ぎ、夫れから踊り疲れた脚をつゝんで居た靴下を脱いだ。』
『相手にしたいものは大勢だけど、さみの方で相手にしないのだらう』
『嫌よ松野さん、貴方だけよ私を買被つてゐるのは……煙草いかに』
『さう言つて静江は寢臺の近くの側卓の煙草入れを取上げるとそのまゝ、松野の方に差出した。』
『仲々しやれた煙草吸つて居るんだね』
『それや煙草位は……さう言ひながら松野の口にくはへたゲルペゾラにマツチ

をつけてやつた。
松野はこの一ヶ月近くも静江と毎晩のように踊りつゞけてゐるのだが、その間一度だつて甘い言葉なんかかけた事無かつた。さうしたへんに片意地を守つてゐる様な松野の態度に静江の方で反へつて心惹れてしまつてゐるのだ。
派手で賑かな旋律のルムバを踊つてゐる時だつてホルの照明が青い光で薄暗くなつた中で踊るタンゴの曲の時だつて何時も黙つて踊るのだつた、何んとか言ひそうなものだと静江は思つて居るのである。
——今晚だつて松野の方で静江を送つてやらうと言つたのでは無かつた。ラストを踊つてゐる時に何か話の内に偶然双方の家が近いことを知つて『ぢや今晚一諸に歸りませんか?』と静江の方で言も出した位であつた。『今晚は一諸に歸る人が違ひはしなかつたかね』と松野の皮肉な言葉が終らぬ内に静江は松野の脊にかけてた手で脊中をつねつた。『イテッ』と頓狂な聲をはりあげたので静江はびつくりした。『珈琲がよくつて? それとも紅茶? ミルク?』
静江が訊ねた。『珈琲が好きなんだけど、今から飲むと寝られなくなるんでネ……

夫れに毎晩……寝なくつたつていゝぢやありませんか……ネエ、今夜は寝ないで何か話しませうよ、私かへしませんわ』
静江は急に甘い口調で云つた。静江はダンスの生活にも疲れた、ジャズの音にも男の色々の誘惑にも飽き／＼した。『珈琲を飲まして今夜は寝かさないうわ……で御迷惑か知ら?』
『ちつとも』
ツキラ棒に返事をした。『今夜はいろんな事聞いて頂きたいのよ、ほんとうに御迷惑でないかしら?』
『いやチツトモ、僕の方でも聞かせて貰へたいんだ、女の心理状態を……戀人の……まゝお戀人ですつて、御馳走さま』
『いや戀人と言つたつて過去のだが』
松野さん、すました顔をして仲々油断もすきもならないわネ』
『だから君も注意しないと危いよ』
『私なんか誘惑されれば本望よ、敏夫さん』
『……』
『美男子はとくですネエ』
『何を言ふ?』
松野は無表情に言つた。その無表情な愛慾の微塵も無いような松野が不思議にも静江の心をとらへてゐるのだ。

文藝募集

生徒募集

- (一) 本科 五十名
 - (二) 裁縫専修科 百名
 - (三) 専攻科 三十名
 - (四) 師範科 二十名
 - (五) 本科裁縫専修科第二學年補欠若干名
- 文部大臣 藤田女學校 認可
- 一、願書受付 三月三十日マデ
二、詳細ハ學則請求ノコト
- 平町田町(電話三二二八)

躍進日本の女性に!!

婦人の職業として、家庭の衛生學として産婆看護婦を御奨め致します。それには成績の最もよいと定評のある

平南町 産婆看護婦學校

◇申込み成るべく早く
◇新學期の開始は四月八日より

平産婆看護婦學校

校長 清野キヨ
(電話三〇七番)

産婆看護婦 生徒募集

願書締切 四月五日迄

平町一丁目

平町播磨小路一番地に新築移轉す

石城産婆看護婦學校

電話三五七番

古レコードと蓄音器買入

皆様の御家庭にて既に御不用となつたものでも何處の店よりも高價に買ひます

平町三丁目

天地堂

電話五八九番

しもやけ家傳藥

是マデしもやけハ暖カニナラネバ治ラヌモノト諦ラメテ居ツタノガ一日二三回二三日ノ御使用デクズ治リマス。

現今ノ塗藥トハ異リ審法ニヨリ根本カラ除去スルモノデアリマス。
しもやけハ寒サノ爲ニ皮下毛細血管ガ障害ヲ起ス爲ニナルノデ塗藥等デハ決シテ治ルモノデアリマセン、又クずれたしもやけニ塗藥デハ塗布ト同時ニ痛ミヲ感ジタリカゆみヲ増シタリ致シマスガ此藥ハ無刺戟ノ中心地良イ審法ニヨリ皮下ノ血行ヲ良クシ幼キ御子様方ニモ喜バレ如何ニクすれは是非一度御試シ下サイ。

東京丸井邦寶堂
平町伊藤石炭店
電話三四九番

第一學年 臺百名
第二學年 若干名
受驗科生 若干名
出願期日 四月四日まで
新學期 四月四日より

生徒募集

創立 卅年
平町城山 磐城青年學校
學費低廉、獎學金の給與、基礎益々鞏固、内容年と共に充實、鐵道其他受驗講座特設

産婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑士 大岩俊雄

平町新川町十九
病室完備 入院隨意 木村病院
電話一六四番

借金は

次第に減少

平町の未拂金

十一年度新豫算編成も終つてはつとした平町、さて是れから爲すべき事業も多いが今迄に遺り繰つた借金の額はどの位あるか？ 一月未現在の調査に依ると公債の未拂金は三十六萬四千七百五十八圓十六銭であるが十一年度を迎へる直前の三月末までには多少整理されて三十三萬九千八百八十一圓八十七銭に減額する筈この公債の内訳は

- △小學校建築費三萬九千六百廿五圓九十三銭△河川改修費五千七百圓△その他水道公債費

であるが他に小學校の基本

児童に及す

炭礦の影響

落合技手來郡 榮養状態調査

石城地方の各炭礦に働く坑夫の子弟が炭礦より影響を受ける精神上及び肉體上の

状態に關し調査する爲め近く縣衛生課の落合技手が來郡、内郷、湯本、好間等の

個人所得營收益等の

申告申請に就て (2)

高屋稅務署長談

次に乙種の資本利子であるが、これは資本利子稅法によつて第三種の所得につき納稅義務を有する者の第三種の所得中營業に非ざる貸金又は預金の利子について課稅することになつてお

救費一萬二千六百四十圓
△道路改修五千圓
であるから是等を通じての重慶は他の都市に較べては寧ろ輕い方である

廣告研究のこの程
展覽會開く 設立された平廣告研究會の第一回講習會は左記の如く廿一、二兩日平町マルトモホールで開催

△「廣告の話」小廣告の作り方」講師奥山儀八郎氏廿二日午後六時△ボスター展廿一、二兩日

反當り三百貫を

目標に推肥獎勵

農村更生を圖る宣傳びら

洩れなく配布

本郡農會は農村の更生は自給肥料の増産にあり、自力によらなければならぬとの見地から堆肥の増産獎勵のため反當百貫を目標とせよとの獎勵ビラを郡下の農家に洩れなく配布することに

合堆積して窒素分の損失を防がねばなりません
一、厩肥の足りない農家は藁や落葉で造成堆肥を作りなさい
一、造成堆肥は材料百貫に石灰五貫内外を水液として注加し假積十日位の後

揚繰網の漁業を

縣下だけで一丸

小名濱水産試験場で協議

縣下揚繰網漁業の統制問題に關して十三日午前十時から小名濱町縣水産試験場樓上に縣下當業者の打合せ會を開くがこれはさきに宮城縣で開催された福島、宮城、萩城三縣聯合の揚繰網漁業

ら小名濱町縣水産試験場樓上に縣下當業者の打合せ會を開くがこれはさきに宮城縣で開催された福島、宮城、萩城三縣聯合の揚繰網漁業

硫安二貫匁を撒布して本積とする

各候補者 衆議院
選舉費用 議員選

舉に當りて第三區各候補者の選舉總費用は十日縣警察部で纏めた處に依れば植松候補の五千五百二十二圓六十七銭が最高で比佐候補の二千八百七十圓六十四銭が最も少ない、各候補當りは左の通り

- △比佐二千八百七十圓六十四銭
- △星四千八百六十三圓七銭
- △鈴木三千七百六十七圓五十八銭
- △松本四千九百九十二圓六十九銭
- △氏家四千五百五十六圓八十四銭
- △植松五千五百五十二圓六十銭

中等教科書 國定教科書

中等學校指定背巻
小學生ランドセル
カバン、手提類

豫習各種辭書
各種全科類
豊富に取揃へました

マルトモ
柴田書店
電話(二三四)番

の統制問題が結局各縣共利害關係を異にするため纏まらなつたので縣下當業者のみ

の獨自な立場から同問題に就いて協議することになつたものである

平町人事

△紺屋町四二鈴木武氏四女 里子さん
△南町二〇當時湯本町字三 函二五〇大泉宇之吉氏四男 男政男さん

おでんと
やさしさと
お氣輕に
五日開店
出前迅速
谷口通
電話二六三番

型を破つた

新味に期待

政變の生んだ

新内閣に關心

▽郡下の反響

大きな衝撃を受けた事件からの政變、その政變から生れた廣田新内閣は難産ながら在來の型を多少破つた處に、幾分の新し味と期待とを寄せられるらしく、加へて政局の不安もこれで何うやら除かれるといふ安堵も手傳つて石城郡下各方面とも一般にはつとしたやうに見受けられる

新内閣の使命は是れからであるが、重大時局に對する方策はその聲明にある

る通り向後施政の上下着々實現するものと見られ、静觀の裡にも緊張味を加へてゐる、政黨方面も今日の場合、こうした非常時内閣の出現を餘儀なしとし、協力一致難局突破を期すると共に、稅政の革正がどの程度まで斷行されるかは多數の關心と興味を持つところ、これから行はれる人事の異動は當然地方にも波及するものと見られてゐる

商戰場裡に

飛躍の門出

五年の功なり

築立つ平商生

輝く六十五名の氏名

螢雪五星霜の功なり懐しの揚土の母校を巣立つ晴れの平商業學校第十六回卒業式は明十二日午前十時より同校講堂で舉げられるが卒業生は左の六十五名である(○優等、◎級長勤績、◇五年精勤)

阿久津勳 赤津七郎 荒義

男 ◇會川清美 青木賢太郎 伊坂正行 猪狩和雄

◇岩佐正治 飯島弘 ◎内海實 宇佐美重一 ◎梅原三郎 牛久諸太郎 ◇岡部孝平 大方敬雄 小野武平 ◎岡田彦太郎 大和田信明 ◎粥塚靖 勝沼正直 金成誠一郎 菅野正

◎勝倉武男 神谷忠男
木村府衛 小林政男 小松喜一 佐藤良吉 ◎齋藤一夫 佐々木隆男 志賀秀雄 庄司經太郎 四家春記 白井敏 鈴木友治 ◇鈴木次良 先崎利雄 關謙造 ◎竹田秀太郎 高田勇高橋芳雄 高橋嘉男 千葉正雄 千葉忠雄 鳥越巖中村鼎 長瀬十郎 長瀬梅雄 ◇永山喜一 永山仁一 ◇西川貞夫 西脇幸一 ◇新妻一 ◇根本輝雄 根本健兒 ◇伴正一 久野秀三郎 舟生忠一 ◇深谷敬徳 ◇本田幸一 ◇本間光 眞

學校から

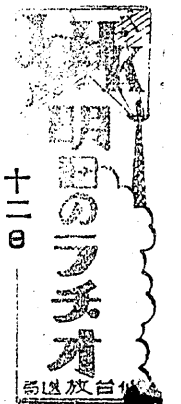
職場へ一直線

羽根が生いた様に

賣れた平商業生

別稿平商業學校の卒業生の就職運動に就いては矢野校長を始めとし擔任の大澤、鳴原兩教諭大童の幹旋が幸ひ軍需インフレの波に乗つて東京方面の大會社、大商店の求人増加に依り極めて順調に進捗し自家營業十四名を除き全部左の如く就職先が決定した

磐城炭礦五名 入山探炭四名 日本製鐵、鹽水港製糖、エンバイヤ自動車國際運輸、瀧富商店、日立製作所、古河炭礦、昭和和人絹、磐城無盡、鐵道各二名 安田銀行、三菱鑛業、三菱商事、古河電氣、日本生命、富國徴兵



明日の話題

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
子供音楽會「ハーモニカ獨奏、獨唱、ピアノ獨奏」
針生一郎他
後六、二五 基礎英語講座
村岡博
後七、三〇 趣味講座「紀野章 森下良雄 ◇矢郷泰若松一郎

州今昔物語「津村秀松 後八、〇〇 人形浄瑠璃
「戀女房染分手綱」(重の井子別れの段) 竹本土佐太夫他 大阪文樂座より
後八、五〇 歌謡曲 有島通男
後九、〇五 人情噺「關津富一 桂三木助
後九、三〇 時報 ニュー濱高商二名

女房氣取り

酌婦に説諭

平町南町料理業加藤リキ方抱酌婦茨城縣水戸市生笹目榮子(三)は稼業中馴染になつた情夫の同町南町會津屋旅館主人黒澤清(四)の女房氣取りで去月中から入り込み、前借八百五十圓ある料理店加藤方へは何の話もつけないので抱主が再三談合したが借金は一文も支拂はず言を左右して歸宅せぬため手を焼いた抱主から十日平署に説諭方を願ひ出た

浪花節の一座が...

菊花の幌幕を張る

平署に身許照會來る

平町材木町四五浪花節遊藝人藤崎晴子(三)鹽生喜一(三)の一行は去る三日東白河郡鮫川村新宿金澤省三方に於て浪花節開演中菊御紋章類似の菊水の幌幕を使用した事探知された旨につい

明日の話題

前七、〇一 基礎トイッ語講座 武内大造
前七、三〇 朝の修養「日蓮上人の生涯」清水龍山
前九、〇〇 衛生メモ
前一一、〇〇 家庭講座「運動家の子を持つ母へ」醫博白石謙作
後〇、〇五 獨唱とピアノ マリーライデルアルスイルズレー
後二、〇〇 ラヂオ學藝大會第一部 鹿兒島 高知

仙臺 札幌より
後二、四〇 同上第二部 管絃樂 名古屋 歌とお話 大阪兒童劇(東京)
後六、〇〇 子供の時間 お話「上杉鷹山公」平仲次
後六、二五 趣味講座「春の野球界」太田四州
後八、〇〇 歌謡曲 金奴藤山一郎
後八、二〇 絃樂 四重奏とピアノ 獨奏 加藤クワルテット 清瀬保二
後八、五〇 箏曲兩田光平
後九、一〇 奈良御水取法 初夜勤行實況(奈良二月堂より)

教員室に

神棚を造る

平町各小學校は従前より町當局を通じて毎年交付される伊勢皇大神宮の御神符を安置する爲め神棚を造つてゐるが今十一月第二小學校では總檜の香床しく出来上つたので教員室正面へ取り付け日本精神作興のため毎朝禮拜することゝなつた

△農夫 廿五才迄 給八圓
△漁夫 五十才迄 月給卅圓
△回職を求める方
△電工 廿三才 高卒
△自動車助手 廿才 高卒
△小守 十一才 尋修
△洋服裁縫 卅六才 尋卒

國語教育

研究講習

石城郡國語教育研究會は既報の如く石城教育會後援の下に静岡縣小山小學校長古見一夫氏を招き来る十五日より二日間第二小學校に於て國語教育講習協議を開催するが講師に新國語教育及び綴方雜誌大富士の主幹當日前十時より模範授業

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雜誌が 自由に讀める 川崎文庫 電話六三〇番 (申込次第規則書送呈)



悟道軒圓玉(作) 尾至陽(書)

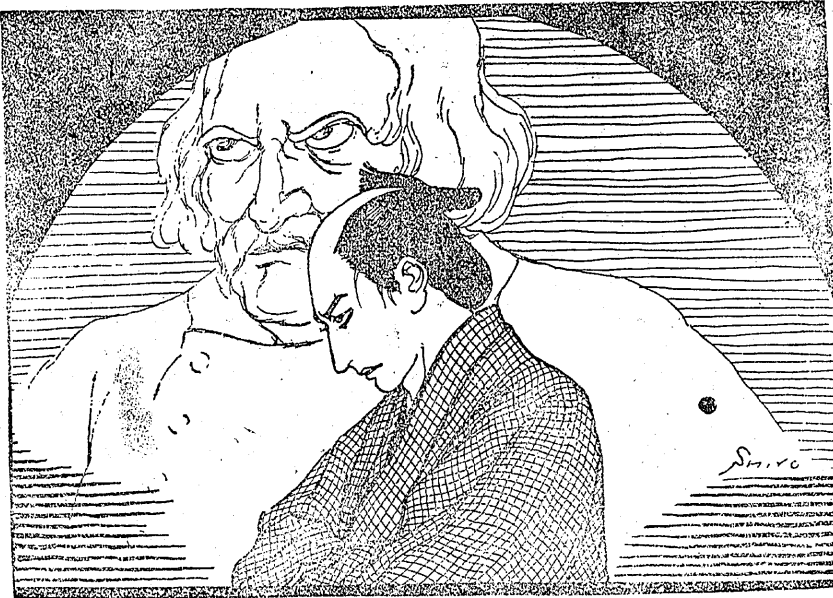
六九 命を捨て場所 青木彌太郎は八百松に向

青「松、人は百歳まで生きるとは珍らしい、永くとも七八十歳にて世を辭するものが多い、息三寸通ふうちに男らしいことをして死に度いもだな、貴様にその決心があれば永く御恩をうけ徳川家のためにつくせ、さすれば後の世まで名ものくる」

松「へエ判りました、然しどんなことすれば公方様のおためになりますね」 青「貴様も知つて居るであらうが京都に浪人共があつたり、外國人を打ち拂ふとすることに於いて幕府の處置を攻撃いたす、それが次第に江戸にはびこりその軍費と號して浪人共は江戸市中の豪家に押し入り金を取る」

松「まあ殿様待つておくんなさい、お前さんのやうなむづかしいははれては判らねえ、かういふわけなんです、公方様の一手で夷人を追ひ拂ふことは出来ねえところへ付つけ入つて、浪人が公方様をいぢめるんだね」

青「早く申せはさうだ、公儀の手にて出来がたきことを口實にして江戸に居る浪人または大名の家來が悪事のみにいたす、しかし今は



幕府の勢ひもおとろへて居ればそれらを充分に取締ることもならぬ、そこでこのまゝに過ぎ行くと幕府は仆れるであらう」 松「幕府といふは誰の名だね、大名に幕府といふ名は聞いたことが無え」

青「幕府といふは大名の姓名ではない、それは公儀のことだ、もつと判りよく申せばお上のことだ」 松「それで判りましたよ、これからどうするつもりだね、浪人を相手に戦でもしますかね」 青「イヤさうではない、幕府を無事にしたすは外國人をこの日本へ置かぬやうに致さねばなるまい、さすれば徳川のお家も安全である、依つて吾々の手にて外國人を切り拂ふことにいた

てるさすれば金も喜ぶであらう、さういふわけで俺は悪事をして金儲けをしたもおどしてその金をとりあげる、しかし今も申す通り外國人を打拂ひこの日本の土地に於ける足跡を止めぬやうにいたす、かうすれば公方様への忠義になるであらう、何うだ、公方様や又この國のために死ぬか」 松「そいつは面白い、有難い」 青「面白いといつてこんなことは慰みにすることではないぞ、命を捨て、するこゝとだぞ」

松「心得て居ます、二タ言めには殿様は命をする、といふが、命なんてえものはそれ程大事なものと思はれねえ、といふは生きてる者はみんなこの生命がありませ、して見れば世の中に澤山あるものだ、澤山ある品物は値も安い、ましてわつちら共の命などは古着ならば色がさめて雑巾にならばかり、こんな命の二ツや二ツ捨てたところで朝湯の歸りに錢を四文おとしたより惜しいと思ひません、しかねえ、安ん命とつまらねえことにするは馬鹿だ、いさぎよく捨て、えものだ男になれるとか未世まで名が残るとか又人の難儀を助けるためにすたいものと實は五六年前から命を捨てることをさがしてゐたんだ、待てば海路の日和はこの事か、公方様のため徳川様のために捨てるとはこんな有難いことはない、何時でもすてますよ、今夜あたり死にますかね、日の宜い日を見て置いておくんない」 青「その命を捨てる時節を待て、但し貴様一人は殺さぬ、その時は俺も一諸に死ぬぞ」と云ひました。

スガノヤの... 三月 ヒナ人形 陳列賣出し

本年新型人形 オボコ人形 變りヒナ 小道具類一式 十五人揃セット 各種豊富に陳列致しました 是非御來店の程お待ちして居ります 平町四丁目 スガノヤ提灯店

夜十時迄

電話九五番

三月 雛人形陳列

桃の節句が近づきました 可愛いお嬢さん方のお祝には フクダヤの雛人形 本年の特製品、セツト物 古代人形、童謡人形等々 あらゆる種類を集めました ぜひ御一覽下さい 一人物箱入 三十錢 ヨリ 二人物箱入 六十錢 ヨリ 御殿付内裡 壹圓 ヨリ セツト物 百圓迄 其他いくらのでも揃つて居ます フクダヤ祝品部 平二丁目

開院

外科一般特ニ内臓外科 皮膚科 肛門病科

北川外科

レントゲン科 物理療法科

平町新川町(諸橋醫院跡) 醫學博士 北川芳夫 醫學士 奥義弘 イツデモ入院出來マス 電話四六四番

花環 神佛葬具 盛花 久壽玉 御用燈 寶明燈 靈柩自動車

造花

平新川本橋 屋本橋 三六一電